

[P-055]不眠を訴える患者に対して消導薬を使用して効果を得た 1 症例

小川 純^{1,2}, 酒井 駿太郎², 田中 稚佳子², 川口 智子², 小川 光一^{1,2} (1.おがわ薬局, 2.あゆみ薬局)

【目的】不眠を訴える患者の場合、一般的に医療機関では睡眠導入剤が処方され、薬局及びドラッグストアにおいては一時的なものを対象に睡眠改善薬が販売される。また、医療機関、薬局、ドラッグストアにおいて漢方薬が利用されるケースもしばしば見受けられる。今回は、西洋薬や漢方薬ではなく、消導薬として使用されることの多いハーブが配合された健康食品を用いて睡眠の改善に至った症例をここに報告する。

【経過】初回相談：歩行補助具としてシルバーカーを押して来局。既往歴に白血病、脳梗塞、乳がんなどがある。骨髄系疾患の既往歴や肌の乾燥が目立つ。主訴が冷えであったことから参茸補血丸をおすすめ。脳梗塞後の後遺症により下半身に痺れがあるとのことだったため独活寄生湯も併用することになった。

2 回目相談：初回相談時から 1 ヶ月経過後、冷えについては改善の傾向が見られ以降月に一回参茸補血丸の服用を継続。

8 回目相談：風邪症状で相談あり。その際に胃もたれの症状も訴えていたため山査子配合食品を 3 日間併用した。

11 回目相談：「お腹が弱っている」との相談あり。詳しく聞いたところ食欲はあるが少し食べると胸焼けや胃もたれの症状が現れるとのこと。以前 (8 回目相談時) に飲用した山査子配合食品が良かったため再度飲用を希望。

12 回目相談：前回相談から 1 ヶ月後「併用を始めた山査子配合食品を食後に飲用することで胃もたれはもちろん寝る前の飲用により不眠を感じるものが少なくなった。朝起きて活動できる日が増えた」との連絡あり。以降山査子配合食品の併用を継続し、睡眠に対する相談は激減した。

【考察及び結論】睡眠導入剤や睡眠改善薬、一般用医薬品に分類され不眠症が効能効果として認められている漢方薬を使用するだけではなく、中医学理論に基づいて正しく証を弁別することが出来れば、漢方において消化を助け、気のめぐりを改善すると言った消導薬として使用されることの多いハーブが配合された健康食品を用いることで胃腸の健康を維持し、中医学でいうところの食積を解消しそれに伴う睡眠の状態の変化を元の状態に戻していくことができる可能性が示唆された。

【キーワード】不眠、中医学、弁証論治、消導薬、健康食品